

第1回 説明文・論説文(1)

◆次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(1)～(12)は、形式段落の番号を示します。 【百百合 改題】

① 縁は、まことに異なるものがあり、味なものがある。

② ここにいう縁とは、住まいの縁、1 縁側や、*ぬれ縁などのことである。このような縁があることによって、日本の住宅は、その

Aな狭させまにもかかわらず、Bな狭さをあまり感じないですむ。座敷ざしきから、明かり障子しょうじと縁側えんがわのガラス障子をとおして見る庭、それは、室内の落ち着きの中に、四季の変化を楽しむ、日本の住まいの最も優れた生活空間の一つの場面だ。また、縁側の障子を開けて放てば、座敷と庭は、縁を挟んでひと続きのものとなる。夏の午後など、縁側で涼風りやうふうを受けながら、うたた寝していると、庭の木陰で昼寝をしているのと、同じような気分になる。

③ 縁を異なるもの、と言うのは、2、(2)*軒下のぬれ縁などが、いったい内部空間(戸内)なのか、外部空間(戸外)なのか、*判然としない、というところにある。

④ ぬれ縁は、部屋から見れば、ガラス障子の外にある風の吹きさらしの所だから、外部空間と見なされる。3、外から見ると、4 板敷いたじきは、軒下にあつて一応屋根や、*庇もかかつており、*の床もあるのだから、純然たる戸外空間とはみなしにくい。建築の内部空間ではないにしても、せめてその附属空間である、というぐ

らいのことは言えそうである。あるいは、建築の構成から言うと、屋根があつて壁がない庭にある東屋あずまやだとか、壁があつて屋根がない

ヨーロッパの広場だとかいうように、少しずつ何か欠けた「半建築」の一種と言ってもいいものだろう。

⑤ また、ガラス障子の内側にある縁は、通常縁側などと呼ばれるが、日本建築の感覚では、ここは室内空間ではないのである。ガラス障子のなかった昔は、この縁側には障子を立てず、台風とか大雪の時には、外から戸板をはめ込んで防ぐ以外は、*普段は吹きさらしのままであつたものが多い。今でも田舎へ行くと、そういう農家を数多く見かけることだろう。

⑥ そこで、こういう外部空間でもなければ内部空間でもない、いわば(3)コウモリのような異空間であるぬれ縁や縁側などを、一部の建築家の間では、「つなぎの空間」とか「第三の空間」などというように呼んで、純然たる内部空間や外部空間と区別しているのである。

⑦ 一方、味な空間というのは、初めに述べたように、室内と庭とを、視覚的、心理的に、時にはつなぎ、時には切り離す、異種の(4)空間の「連結器」のような役割をもっていることをさすが、それは単に、(5)視覚や心理にとどまらず、時には機能的、行動的にも、つなぎの空間としての意味を持っている。

⑧ 私の家の近所の(6)おばあさんの話を例に引くところだ。おばあさんは、息子夫婦が建てた明るい洋風の*モダンリビングに住んでいる。ところが、このモダンリビングには、縁側がない。そこでおばあさんは言う。昔の家には皆縁側があつたので、年寄り縁側に座つて、針仕事をしたり、孫のお守りをしたり、また庭に出入りしたりして、一日を過ごすことができた。更に縁側に座っていると、通りがかりの人々の様子をよく見ることができた。近所の人ともあいさつできるし、たまには、縁側に腰かけて話し込んでいってもく

れる。雨が降れば障子を閉めればよし、お天気になれば障子を開けたまま昼寝をすることもできる。縁側は年寄りにとっては安全で、しかも、快適な場所だった。そういう縁側が新しい家からなくなっただといふことは、いくら便利なモダンリビングでも、年寄りにとっては、不便で、味気ないものだ。では外へ出ればよい、と言われながらも、替えをしなければならないが、たとえ近所の公園へ行くにも、女はいちいち着替えをしなければならず、気軽には出歩けない。それに昔と違って、通りは自動車が増えてきたために怖いし、また歩道橋みたいなものを渡らなければならぬかと思うと、気が重い。息子は、家の中にいるようにと、テレビを買ってくれたが、テレビでは話が得意な、と。そう語るおばあさんは、寂しそうであった。

9 (7) ここで私たちは、反省をしてみなくてはならないだろう。年寄りにとって、いったい現代文明とは何であろうか。少なくとも、縁側のないアメリカ式のモダンリビングは、日本の年寄りにはあまり

りありがたくないようだ。(8) それは、老人だけではない。主婦にとっても小さい子供にとっても、たまの休みに家にいる亭主にとっても、庭続きの縁側は、気持ちよくありがたいものだろう。それがな

10 縁はふちとも呼ばれるように、もともとは、昔の中国服の袖や裾に付いているぴらぴらした「縁飾り」のことをさして言ったもので

ある。服の袖や裾に縁飾りを付けるには、幾つかの理由がある。一つは、着物の糸がほつれてくるのを防ぐための、縫い取りを兼ねた「隅押さえ」であるといふこと。第二に、着物の端部の擦り切れの「C」と、更に擦り切れた時に、新しいものと取り替えのきく「互換品」としての意味を持つ。畳のへりもそれで、それは実際消耗品

として取り扱われている。そして第三に、縁飾りと言われるとおり、それは着物の「飾り」でもある。畳のへりも、昔、いろいろに模様が入ったものが使われていたのである。

11 この着物や畳における縁の機能を、日本の住まいに置き換えてみると、同じようなことが言える。すなわち、木や紙、畳という柔らかい材料で造られた日本の住まいの外周を、それは「C」しているのである。もし縁がなければ、開放的な日本の住まいでは、雨や直射日光が直接室内に入り込んできて、畳や障子、土壁などを傷めつけるであろう。日本の住まいが柔らかい材料でできているということと、開放性を持つということとを前提とすれば、「D」にいても、縁は欠かせないものである。そしてそれは、また「遊びの空間」としても重要な。座敷が、格式的な空間なら、縁は格式にとられない自由な空間である。そこには床の間もなければ、額もない。したがって上席も下席もない。座敷で、宴が始まる前、あるいは宴が終わった後に、人々が自由に「E」場所なのである。

12 何百年の間、日本の風土と社会の中にはぐくまれてきた伝統的な生活空間の数々を、新しい機械文明の前に、ただ古くさいからといって、よく考えもせずに葬り去ってしまった例を、私たちの周囲に多く見かけるが、縁もまた、そのようなケースの一つではないか。

(上田篤『日本人とすまい』より)

※ぬれ縁……雨戸の外にあるはばのせまい縁側。

※軒……屋根の下端の張り出た部分。

※判然……はっきりとよくわかること。

※庇……窓・縁などの上部に張り出した小さな屋根。

※モダン・リビング……ここでは「近代住宅」程度の意味である。

※格式的……「礼儀・作法を重視した」、または「かしまった」の意味。本

来「格式」とは、礼儀・作法のこと。

※宴……「えん」とも読む。ここでは、昔から行われている行事として、あるいは大切な人をもてなすために、決まった方法で行われる宴会のこと。

問一

1 4 にあてはまる言葉をそれぞれ次から選び、記

号で答えなさい。

ア また イ すなわち ウ しかし エ たとえば

問二

A E について、次の問いに答えなさい。

① A B にあてはまる言葉として、最もよい組み合わせ

せを次から選び、記号で答えなさい。

ア A内部的・B外部的 イ A物理的・B心理的

ウ A視覚的・B実際の エ A伝統的・B近代的

② C E にあてはまる言葉をそれぞれ次から選び、記

号で答えなさい。

C ア 補修 イ 補足 ウ 補強 エ 補給

D ア 視覚的 イ 行動的 ウ 心理的

エ 物理的

E ア まどろむ イ むらがる ウ くつろぐ

エ たわむれる

問三

文章中には次の一文が抜けています。どの形式段落のあとにも

どせばいいですか。もどす直前の五字を抜き出して答えなさい。

つまり縁側は、もう庭なのである。

問四

——線(1)「縁は、まことに異なるものがあり、味なものがある」というのは、「縁は異なるもの味なもの」という慣用句に基^{もと}づいています。この慣用句の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 人と人との関係はそれぞれに違いがあつておもしろいものだ。

イ 人と人との結びつきは人生の特別の経験で味わい深いものだ。

ウ 人と人との関わりは度を越すと後味がよくないものになる。

エ 人と人との結びつきは思いがけず不思議でおもしろいものだ。

問五

——線(2)「軒下のぬれ縁などが判然としなしい」とありますが、なぜ「内部空間なのか、外部空間なのか、判然としなしい」のですか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

問六

——線(3)「コウモリのような異空間であるぬれ縁や縁側」とありますが、「ぬれ縁や縁側」を「コウモリ」にたとえたのは、どのような意味からですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア どちらであるかはっきりしないものという意味から。

イ いかにも無気味で暗い感じがするという意味から。

ウ 二つの面を状況に応じて使い分けるという意味から。

エ 二つの役割を同時にこなせるという意味から。

問七

——線(4)「空間の『連結器』」とありますが、「連結器」とはどのようなものですか。そのことをうまく説明している一文をこれより前からさがし、はじめの五字を抜き出して答えなさい。

問八

——線(5)「時には機能的、行動的にも、つなぎの空間としての意味を持っている」とありますが、「縁」が、機能的、行動的にも、つなぎの空間としての意味を持っていることを、おばあさんの話から具体的な例をあげて説明しなさい。

問九

——線(6)「おばあさんの話」とありますが、そのなかでおばあさんが一番うったえたいことはどんなことですか。次の□にあてはまる言葉をそれぞれ文章中から十〜十五字でさがし、抜き出して答えなさい。

年寄りにとって縁側は□アであり、それがなくなるのは□イである。

問十

——線(7)「ここで私たちは何であろうか」とありますが、筆者は「現代文明」についてどのようなことを「反省」しなければならぬと言っていますか。次の□□にあてはまる部分を文章中からさがし、はじめと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

□□ことを反省しなくてはならない。

問十一

——線(8)「それ」が指していることを、文章中の言葉を使って三十五字以内で答えなさい。

問十二

——線(9)「味気ない生活になりつつある」とありますが、それはなぜですか。次の□□にあてはまる言葉を文章中から漢字二字でさがし、抜き出して答えなさい。

現代の日本人が表面的な□□さを求め過ぎたから。

問十三

この文章を四つの部分に分けると、どの分け方がいいですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| ア | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| イ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| ウ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| エ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |